

みんなの只見線

只見線地域コーディネーター

酒井 治浩 さかい はるこ

未来をつくる先生

試運転が始まる前日に、この文章を書いています。11年間客車が走らなかつた会津川口―只見で、いよいよ明日から試運転の車両が走る姿を見られるのかと思うと、落ち着いていられません。

普段は町外で活動することが多く、只見線にかかわる活動では、千葉や東京などの首都圏から来られる方ともたくさん出会います。

只見線が本当に好きで通っている方が多く、その方たちは休みを調整して、自分が撮りたいもの、行きたい日に照準を合わせて行動しています。思うように撮影できなかったり、仕事で行けなかつたりする日が続くと「禁断症状」が出て急に思い立って撮影に来

るといふ人もいます。では、地元にはそういう人はいないのでしょうか。実は、只見町にも只見線を応援している人がいます。今回は、子どもたちのことを紹介します。

現在、私は只見駅から16kmほど行った坂田区に住んでいます。布沢川流域で、全体で40軒ほどの世帯があり、その奥には布沢区があります。坂田・布沢で小学生がいる家は、私の家を含めて3軒です。

まず、坂田区に住む小学6年生と中学2年生の姉妹を紹介します。彼女らはお父さんの仕事をきっかけに、親子で只見線全36駅を自転車でする、という大変なプロジェクトに取り組んでいます。夏休みなどの長期休暇を利用し

て、只見駅からスタートして各駅を回ります。お姉さんが最初に挑戦し、妹さんがその翌年に挑戦。駅を回ることに写真が送られてきて、一緒にプロジェクトに参加しているような気分させてくれました。沿線の方々に企画を伝えると、列車の撮影の傍ら、自転車の親子を探して声をかけてくれる方もいました。

また、その姉妹は、只見線の車内でファッシュショーを企画し、大手の子どもも企画プロジェクトで優秀賞を受賞しました。2021年3月には只見駅のホームでファッシュショーを実現させました。

ランウェイに見立てた停車中の只見線車内で、プロのモデルさんと一緒に、かつては当

たり前に着られていた只見の仕事着を現代の洋服と組み合わせさせた衣装を着て、モデルウォークを披露してくれました。二人の堂々と、そしてイキイキとした姿を目の前にして、只見町に今あるものを素晴らしいと感じ、それを自分たちで発信する姿に感動しました。もう一人、布沢に住む男子のことを紹介します。

あるとき、私が車内案内の仕事のため、会津若松駅のホームで待っていると、あれ、見たことがある人だな？と見ると、私の子どもと同じ小学校に通う男の子とお母さんが立っていました。彼は小さいころから鉄道が大好きで、色々な車両が見られる会津若松駅には、時間を作って訪れているとお聞きしました。居間の一角は鉄道コーナーになっていて、彼は学校の自主学習で只見線の全線再開への思いを書いたり、私と同じよう

に手作りのデйкаウンター（只見線が全線再開する日まであと〇日、と数えるもの）を自宅にかざったり、只見線のオリジナル駅弁を考えたりしているそうです。私は、お母さんを介して、車両の写真やイベントの告知、只見線のテレビ放映のお知らせなどを伝えていきます。

自分で考え行動し、その楽しさや失敗を経て、また挑戦する。そんな子どもたちは、地域の未来をつくる先生だと思っっています。



▲部屋に飾られていた手づくりのお祝いボード